

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00798

研究課題名(和文) スマートフォンによる英語学習者に対する自律的学習の向上に関する縦断的研究

研究課題名(英文) A longitudinal study of promoting learner autonomy of English learners through smartphones

研究代表者

G・R Stockwell (Stockwell, Glenn)

早稲田大学・法学大学院・教授

研究者番号：90367988

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間中、私はこのテーマに関連する幅広い研究に従事し、20回以上の学会発表、国際査読付き学術雑誌の研究論文を5本、書籍のチャプターを2本、そして3冊の書籍を執筆した。来年末までに2冊の書籍が出版される予定である。5本の学術論文のうち4本はScopusにインデックスされており、3冊の書籍はケンブリッジ大学出版局から出版される。私は現在2つの国際査読付きジャーナルの編集長として引き続き活動し、言語教育とテクノロジーの分野において最もランクの高いジャーナルの副編集長を務めている。また、2022年度は、18か国の学者が参加したトピックの国際会議を主催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国語の学習者が長期的な勉強に取り組む方法を理解することは、言語教員の主要な目標の1つであり、その結果、現在の研究はそれがどのように可能になるかについていくらかの示唆を提供している。私が執筆した学術論文や書籍はすでに良い評価を受けており、このような研究が必要であったことを示している。さらに、教員が書籍、学術雑誌、およびその他のリソースへのアクセスが制限されている開発途上地域での学会で結果を発表することにより、私の貢献は幅広い教員に提供できたと思われる。

研究成果の概要(英文)：During the period of the research, I engaged in wide-ranging research associated with the topic, resulting in over 20 presentations, five international refereed research articles, two book chapters, three completed books, and more two books that are due to be published before the end of next year. Four of these journal articles are indexed in Scopus, and three of the books are published by Cambridge University Press. I have continued to act as Editor-in-Chief of two international refereed journals and the associated editor of one of the highest-ranking journals in the field of technology in language education, and I organised an international conference on the topic which was attended by academics from 18 different countries.

研究分野：コンピュータ支援語学教育

キーワード：eラーニング

1. 研究開始当初の背景

モバイルラーニングの可能性に気づいたのは10年以上前だったが、学習者は携帯電話やスマートフォンを通して、様々な教材にアクセスができるにしても、積極的に取り組まないのは現状である。語彙・文法・リスニング・リーディングなどを幅広く試してみたが、授業外の取り組みは持続しないため、持続性をどのようにもたらすことができるかを着目した。学習自律性が注目されている中、SNSでのサポートなどを研究したが、それぞれの学習者にとって必要な学習方略が違うことに気づいた。以前も学習者プロファイリングを研究したことがあるが、それを生かすため自律性に繋がるかどうかを研究することを決意したため、この研究を行うことにした。

2. 研究の目的

日本の大学生は英語の必要性を感じるが、勉強に対する熱意を保つのは困難だと思われる。テクノロジーを利用すると一時的な動機付けの向上に繋がっているが、その熱意は徐々に衰えてしまう研究は頻繁にされている。この現象を見てみると、学習方法についての指導が冒頭にのみ与えられ、その後はそのため、コンピュータやスマートフォンで効果的に英語を学習するための学習方略を継続的に与え、自律性を養う必要があると感じた。授業中の時間だけでは、学習方法の指導が足りないため、学外でも自分の学習方法について考えさせることができると想定した。従って、この研究では、スマートフォンを利用して学習するためのそれぞれの学生のニーズに合った学習方略を与えることによって、学習者がより効果的かつ自律的に英語の学習ができるようになるかどうかを調査した。

3. 研究の方法

本研究では、学習者の英語学習に対する持続性および自律性を育成することを主な目的としていた。それを達成するためには、まずはそれぞれの学習者が抱えている問題点を分析したうえで、それに伴うフィードバックと改善するための学習方略を与えた。そのため、学習者のプロフィールを作成する必要があるが、そのプロフィールを効果的に利用し、フィードバックをどのように与えればいいのかを検討する必要がある。本研究の一年目にはプロフィールの設計を調査し、ウェブアプリを通して学習者の語彙力、文法力、聴解力、読解力を図る。以前研究代表者が行った研究でそれぞれの基盤ができて

いるが、総合的に調査するためのアプリの開発が必要である。この段階では代表者が担当するクラスの 62 名の英語学習者（大学 1 年生）を対象にプロフィールの作成に試みた。そのプロフィールに基づいて、まずは教員側で学習方略を実験的に与え、その効果を調査した。2 年目には、プロフィールをアプリで自動的に作成することから始めた。代表者が担当するクラスの 65 名の英語学習者（大学 1 年生）を対象にアプリでそれぞれのプロフィールを作成し、教員側が作成したプロフィールと比較した。1 年目の結果に基づき、フィードバックと学習方略を与えながら、英語学習に対する持続性を調査し、TOEIC を利用して、学年初めと学年末に英語の能力の上達の有無を調査した。3 年目からコロナによって 2 年間の間予定していた研究が行えずウェブアプリの調整に専念した。5 年目には完成されたアプリを通してプロフィールを自動的に作成し、代表者が担当するクラスの 65 名の英語学習者（大学 1 年生）を対象に、ウェブアプリを通してフィードバックと学習方略を与えた。英語学習に対する持続性を調査し、英語到達試験を通して、学年初めと学年末に英語の能力の上達の有無を調査した。提供された教材以外にもどれくらい学習を行っているのかを確認し、自律性に繋がっているかを調査した。

4 . 研究成果

当該研究の結論では、日本人大学生の英語学習においてスマートフォンを長期的に利用した学習は一定の効果があるものの、学生や教員とのコミュニケーションを取らない限り、一人で取り組むことは長続きしないことが示された。つまり、社会的共同体におけるインタラクションが不可欠であることが明らかになった。具体的には、学習者が自分の学習について話し合うことで、授業時間外の学習を計画的に行い、問題に直面した際に恥じらずに教員や他の学習者に相談できる環境が整っていることが、この研究を通じて分かった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Stockwell, G., & Wang, Y.	4. 巻 未定
2. 論文標題 Exploring the challenges of technology in language teaching in the aftermath of the pandemic	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RELC Journal	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/00336882231168438	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Stockwell, G.	4. 巻 76
2. 論文標題 Living and Learning with Technology: Language Learning with Mobile Devices	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 English Teaching	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15858/engtea.76.s1.202109.3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Stockwell, G.	4. 巻 1
2. 論文標題 Historical foundations of technology in SLA	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Routledge Handbook of Second Language Acquisition and Technology	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781351117586-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Glenn Stockwell	4. 巻 1
2. 論文標題 Insights from replication on the factors affecting task engagement in mobile-based learning activities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Technology in Language Teaching & Learning	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.29140/tltl.v1n1.152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Glenn Stockwell, Hayo Reinders	4. 巻 2019
2. 論文標題 Technology, Motivation and Autonomy, and Teacher Psychology in Language Learning: Exploring the Myths and Possibilities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annual Review of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0267190519000084	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Expanding the learning ecology of English language learners with mobile learning
3. 学会等名 The 5th International Conference on Applied Liberal Arts (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Disrupting the English language teaching and learning ecology with mobile devices
3. 学会等名 2022 Hwa Kwang International Conference on English Language & Literature (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Adapting to the changing English language teaching and learning ecology with mobile devices
3. 学会等名 2022 ISoLEC Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Mobile learning in a rapidly changing world
3. 学会等名 31st International ETA Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Exploring competition to enhance learner engagement in out-of-class activities
3. 学会等名 20th International CALL Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Technology and Research in Language Teaching
3. 学会等名 2019 International Conference on Research Methodology in Second/Foreign Language Learning & Teaching (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Exploring competition to enhance learner engagement in out-of-class activities
3. 学会等名 JALTCALL 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Technology and language teaching and learning: Challenges and opportunities
3. 学会等名 Indonesian Linguistics Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Glenn Stockwell
2. 発表標題 Challenges and opportunities from paradigm shifts in Multimedia Assisted Language Learning
3. 学会等名 Korean Multimedia Assisted Language Learning Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Stockwell, G.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 300
3. 書名 Mobile Assisted Language Learning: Concepts, Contexts and Challenges	

1. 著者名 Colpaert, J., & Stockwell, G. (Eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Castledown	5. 総ページ数 334
3. 書名 Smart CALL: Personalization, contextualization, & socialization	

1. 著者名 Colpaert, J., Wang, Y., & Stockwell, G.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Castledown	5. 総ページ数 215
3. 書名 Proceedings of the XX1st International CALL Research Conference	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------